

1年の算数

1. 全体としては、映像的イメージを持たせ、問題解決に当たる。
そのためには、動作化・場面設定における付加が、主な手段である。
図や絵を見せたり、映像を見せたりすることがいつでもいいとは限らない。
なぜなら、頭の中にイメージをつくるという作業をしないようになる可能性がある。

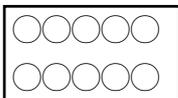
2. 数について

- ①指導者が、順序数と集合数（計量数）の区別をはっきりすること。

子どもたちは、入学した当初は、数を順序数で把握している場合が多い。

たとえば、指で数える。百玉そろばんを使う。数を数える。

これを、集合数でとらえさせることである。これは、形で数をとらえるということ。



を推奨する。なぜかというイメージしやすい。

「1・2・3 3番目まで数えたからみんなで3つあるんだね。」

3番目＝順序数 みんなで3つ＝集合数（計量数）

- ②比較するときは、1対1の対応をさせること。

「コアラが3匹います。帽子が5つあります。コアラと帽子は、どちらがいくら多い？」

→「コアラが、帽子を1つずつかぶると、ぼうしは、いくつあまりますか」

※差による比較の前提条件は、「同じもの」でなくてはならない。

- ③数の合成分解は、集合数でおさえること。

と並べる方が、数えやすいが、数え引きが起こったりイメージできなかつたりする。

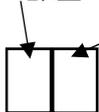
「8は、2と6」の場合 $\begin{array}{ccccccccc} \textcircled{1}\textcircled{2}\textcircled{3}\textcircled{4}\textcircled{5} & & \textcircled{1}\textcircled{2} & | & \textcircled{3}\textcircled{4}\textcircled{5} & & \textcircled{3}\textcircled{4}\textcircled{5}\textcircled{6}\textcircled{7} \\ \textcircled{6}\textcircled{7}\textcircled{8} & \rightarrow & \textcircled{6}\textcircled{7}\textcircled{8} & & \textcircled{6}\textcircled{7}\textcircled{8} & \rightarrow & \textcircled{8} \end{array}$

ブロックを動かす過程が重要。

- ④十進位取り記数法をしっかりおさえること。

数は、0から9までの数字を使って場所によって意味を表します。だから、場所のよって2になつたり20になつたりするのです。

十の部屋 一の部屋



3. 計算について

- ①増加・合併と求残・求差は、しっかりイメージさせてブロック操作をさせること。
 - ・ブロック操作は、**結果ではなく過程**を大切にすること。どのブロックをどこへ動かすか。
 - ・求補は、求残と同じ扱いでいいと思われる。
 - ・動作化で増加・合併・求残・求差を区別する。
- ②繰り上がりのあるたし算（ $8+5$ の場合）
10は、8と2 5は、2と3だから13
- ③繰り下がりひき算（ $12-7$ の場合）
10から7をひいて3 3と**のこり**の2で5

4. 測定について（ながさ・かさ・ひろさ）

- ①測定の領域は、しっかりと量の概念をつくるのが大切。
動作化をしたり、自分の言葉で表現したりすること。
- ②直接**比較**・間接**比較**・任意単位による**測定**
- ③実際に測定することが大切。

5. 図形について

- ・実際に作業することが大切。
「鋏で切る」「定規で直線を引く」「のりで貼る」「色を塗る」作業。
- ・「面」は「囲まれた図形」だから、線で囲んで、「色」を付けることが大切。
色を付けた部分が「面」である。

6. ノート指導

- 基本的には、必要ない。ワークシートがよい。
- 字は、1cmに1字。1行空けてかく。
- ノートにかくための板書は、ノートと同じ黒板にかく。
- ※鉛筆の持ち方、かき方の指導が必要かもしれない。

7. ICTの活用について

- PCでもできるというものに使う必要はない。PCでしかできないものに使うことを考えること。
- 1年生は、特にWBとブロックが有効。